「小児病棟支援プログラム/『ホッとアートプレゼント』全国ネットワーク」事業

入院中の子どもたちと支える家族、小児医療現場に文化的な体験を通して楽しいコミュニケーションのひとときを届ける

「ホッとアートプレゼント」は、入院している子どもたちに文化的な体験を届けるプロジェクト。辛い治療や病気を一瞬でも忘れて、みんなで笑顔になれる楽しい時間を過ごして欲しいという思いから、クラウン、人形劇、マジックなどのプログラムを開発し、小児病棟でプロによる公演を実施。全国ネットワークで、多様なニーズに応えながら小児医療現場を応援する仕組みづくりに取り組んでいる。

全国センターと地域のコーディネート団体のネットワークにより実施

病気や障がいにより長期入院や療養が必要な成長過程にある病児に対しては、QOL（生活の質）や心のケアの面から教育や遊びが不可欠の要素として、認識されており、院内学級やプレイルームの設置、保育士の導入などさまざまな取り組みが行われている。しかし、現行の医療体制だけでは負担できない部分も多く、病児のニーズに十分に対応していくためには外部の専門的なボランティアによる支援が強く求められる。

「ホッとアートプレゼント」は、小児病棟でプロのアーティストが楽しい公演を行い、入院している子どもたちに文化的な体験を届けるプロジェクト。子どもに関わる公益活動を支援するNPO法人「子どもNPO・子ども劇場全国センター」と地域の子育て・子育ち支援を担うNPOがネットワークを作り、2008年から2012年まで延べ79カ所で公演活動を行っており、本年度はAJOSCの助成を受けて全国8施設で実施した。同NPO法人代表理事の稲垣秀一さんは、活動の目的についてこう語る。

「私たちは『ホッとアートプレゼント』をコミュニティ支援と位置づけています。子どもたちを真ん中に、親御さんや看護師、保育士、ドクターなど小児病棟のみんなが楽しいプログラムを一緒に体験することで、治療や病気のことを一瞬でも忘れ、ワクワクと夢中になれる時間を共有していただきたい。それにより、医療従事者と患者の関係の中では見えないお互いの人間的な姿に出会い、関係性が柔らかいものになれば、その後の入院生活に良い影響があるのではないかという期待を持っています」

プロジェクト実施に際しては、全国センター認定の経験豊かな地域コーディネーターが、各病院の地域連携室等を窓口にしてヒヤリングを行い、ニーズを把握して調整にあたっている。病院内という特殊な環境での活動であるため、それに対応したリスクマネジメントはもとより、小児病棟ごとで異なる子どもたちの病状、年齢層、会場条件に適したプログラムを選定し調整するコーディネート力が求められる。したがってプロジェクトの成否は地域コーディネーターの力量にかかっているといっても過言ではない。

クラウンの楽しいパフォーマンスは子どもたちに大人気

公演時間は子どもの体調や状況に応じて1時間以内で調整する

ポスター告知や、子どもひとりひとりに招待状を渡し、子どもたちにワクワクして待つ楽しみを！

実施後のアンケート調査から小児病棟のニーズと評価を検証

プログラムは3年かけて開発してきた。現在は、『びりとブッチィーのクラウニングシアター』、『アンディ先生のマジック教室』、『あかずきんちゃん　スーパー人形劇』など、安全で完成度の高い14作品をリストアップしている。プロのアーティストによるポテンシャルの高いステージは瞬く間に子どもたちの心を捕らえ、会場は笑い声や楽しげな歓声に包まれる。保護者や、会場の賑やかな声に誘われてのぞきにきた病院スタッフからも、「子どもたちの笑顔が見られて良かった」、「こんなに感動するとは思わなかった」という声が上がっている。一方、アーティストたちにとってもこの活動は達成感が高く、「こういうことがしたかった」と皆が口をそろえる。

活動はプログラムを実施して終わりではない。実施後には必ず子ども・保護者・医療関係者を対象にアンケートをとり、報告書としてまとめている。これは活動を検証して多様なリソースの開発につなげるとともに、社会的なエビデンスとして成立させるために、2008年の活動開始当初から同じ内容で続けているものだ。2009年度のアンケートでは、すべての対象で9割以上の人が「楽しかった」「満足」と回答。また、医療関係者からは、病児のQOL向上の対応で不足していた面において、さまざまなプラス効果があるという評価を得ている。

「将来的には医療保険の中に入るべきプロジェクトだと思っています。そのためにも病院のニーズ、活動の成果や評価を社会に発信し続けるとともに、事業スキームを公開していくことが大事です。それによって病院側も安心してヘルプを出しやすくなるでしょう。今は、その社会的な仕組みづくりを目指しているところです」と、稲垣さんはプロジェクトの未来を展望する。

「ホッとアートプレゼント」に関心を持っていただき大変感謝しています。2011年より被災地支援としても活動を展開しています。プロジェクトは6年目となりますが、小児病棟という特殊な環境での活動のため成果を証明することが難しく、評価は現場にお任せしています。本年度の報告書を作成いたしますので、現場からの評価にも目を向けていただけたら幸いです。

担当者より

関心を持っていただき感謝しています

NPO法人 子どもNPO・
子ども劇場全国センター
代表理事
稲垣秀一さん